

氏名 久野 未希 年齢 16 歳 職業・学校名 学生・安積黎明高等学校

「郡山に来てからもう十姫経つから、一度
戻ってみようか。」

私は十年前で富岡町に住んでいた。地震
が人々を襲ったのは、家板をもろく詰まれた
頃だ、た。

あの日、私は小学五年生で、二小从う部活
を始めようと決めていた。午後二時四十六分一
を出で、一生忘れられない瞬間が来た。
搖るて心の中で私をやめた、心。恐怖で泣き
出した後聲を守りつつ、早く止まること二
ヶ月である。それで原発事故が起きた。

最初にテレビでその様子を見た時、もう帰れ
ないのだと悟った。現在も富岡にいる友人に
連絡がとれず、安否が不明である。

五小从う五年が過ぎた。私の住んでいた地
域は地震が起る前のようにな生活で生きていた
が、今、遠くへ出て、海の方に住む。震災と原発で負った
悲しみを胸に、涙を拭いていた。私は皆さん
に思ひ出してくれた。震災と原発で負った
悲しみを胸に、涙を拭いていた。

氏名 佐藤 虹 年齢 10歳 学年 小学校5年生

あの時なぜお二つたのをこう。…

わたしはこの作文を書き前にどうしても言えなかつたことがあります。二の小工、にての思いをつたえたいと思ひます。最初、地震がおきたときわたしは年長さんと一緒にました。おまづらとお母ねをしていたときです。音が夕方から夕方まで音になりました。先生が、「早くもう心にがれなさい」と言いました。もうふにぐくれたら浦川でいる人を笑っていろん人になりました。わたしはどちらかと歩くと笑っていました。なにもりかないなかつたわたしは笑っていろだけでじた。でも家に立ちてみるところや、お車がわれてきました。二つを見てみると、二方ほどつなみやじじんで庭んでしまった二どが分かります。苦笑つた二どを、後悔しました。今でも後悔しています。初めて地震の怖さが分かりました。はやく地震というものが無くなつて手知りになつてしまつ。

わたし5歳の時に東日本大震災が日本を
おもかたのひす。3月11日のある夕方ひした
幼稚園から帰。てきて家のドアを開けよう
としたときでした。がタンと急に地面がゆれ
始めたのです。こわくな。私はたちまち寝
に飛びこんびテーブルの下にかくれました。
しばらくすると外はおきありました。おい
いちゅんがテーブルの外に出ないで」と。そ
部屋を見るとガラス物はほとんどのわれ200kgほ
どある四子、ば元通りちがる30cmほどされ
私は恐怖しがりませんでした。私は今でも
あの恐怖は忘れません。津波に襲われた県な
どのほとんどの家、こうしてしません。私が
大人にな。でも。こうしてしまじかわ。私が
が決めたことは。ふ。こうに向け。ボランティ
アなどにせ。きくことひとりくみたりと
思ひます。将来だけではなくこれからも
あるこうに向け出来ることがあれば、すす
んでや。お書きたいと感。てします。日本の
未来のために。

署名 希望

私は、震災のときに病院で入院していました。それは、2日前から肺炎で入院することになっていたからです。その震災の日は、病院内でゆれが大きく、長時間それが続きました。そして、次の日になると他に重症な患者さんがいるため、退院することになりました。しかし、家では水が止まり、買い物へ出かけても食べ物があまり買えませんでした。そのため、初めは郡山市立郡山第三中学校の保健室に避難しました。寝るところは、ほとんどベットが無いため、テーブルの上にダンボールと毛布をしいて寝ました。夜に、肺炎で胸が苦しくなったときには毎日病院に行っていました。その後、色々なことがあり、開成山野球場にも行き、4月8日に帰ってきました。私の復興への想いは、病院の退院しなくてはいけなくなつた人を減らすことと、これ以上自然災害が起こってほしくないということです。

(20文字×20行)

わたしは、東日本大震災を体験して、わたしは、東日本大震災当日のころは、まだ1年生の終わりころで、じしんがなく、たまには、友達と一緒に下校していましたが、まさか先二わからなあ」と思い、近くの方がハリウッドの女の人かわたし(たまご)のところに来て、「たいじょうぶ?」と、やさしく言うつもりだったのです。わたしは一生で初めて、この年に大きな地震を体験したことなかったし、それも、家に帰ってきて、いわばよからなければ、それが、学校から下校する時に体験したので、もうじつわかったのです。

そして、復興への想いは、あの時から、約5年がたっても、まだ、津波での引っ越しを市町村として、家族が住んでいた家が流されてしまった家の跡の跡ながら、1日ごとに海まで住むようになりました。しかし、とにかく、いいです。なので、じたかのとがんばって、調査してくれます。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 橋本翠奈 年齢 12歳 勤業・学校 三浦小学校

1008

私は3月11日の帰りの会中でありのとくの言葉と、いう一日に友達をしてもりさうれしかったことを発表してしまいました。

私が友達にてありのとく、と言ったら、今から大手を地震がこりました。震度で机の下へがくねるよーにと呼びかけられました。

急いで机の下へかづれ、先生の指示で外へ出ました。外は雪がかり、とでもさむかってのをかけ下さいました。私の友達がこれえつむりじやんぱくをかわしてあります。

情勢混乱と恐怖といふ不景気な表情でした。先生が不安がためまり、「家族は大丈夫か?」これがどうなんだったろう。という言葉、頭の中をめぐり、先生たちが走りながら、ランドセルを、隠窓の和物を持ちに学校内へいらっしゃったりしてました。その後私たちはまほりといふくじせつへ行き、むかえをまらました。あーでてじじを見てると、通りや宮城県がつぶれてあり何人も人の命がなくなるのを感じました。

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 村走 千聖 年齢 12 歳 職業・学校名 漢川小学校

2011年東日本大震災がおこった日の日																			
私はまだ一年生でした。																			
とつせん震災がおこりました。私はふつうの雪だらうと思いましたが、カネは大きく																			
いつもよりもやまづけました。やっとカヌーが																			
おさまり、みんな校庭にひ難しました。帰り																			
は家の人か向えを来てくまました。家につく																			
と、コンクリートはくで壁にかかり入。でくま																			
木でいる所をたやすくありました。日本を																			
の人たちが骨付けまでくめたのでした。																			
◆ 今でもその嘴を忘ることはないでまだ																			
した。今も仮設住宅に住んでいる人たちがい																			
ます。その人たちはと、住んでいた場所の																			
とさじてあからさまにいのうが、いつもまで假																			
設住宅ではなくその古跡跡へ住む生活がいい																			
いと思います。工場でいる所は早く終り																			
て、工場でいる所は早く終り																			
いとへ。といま。																			

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙
 氏名 矢部 遥 年齢 12 歳 職業・学校名 東京・練馬区立練馬川小学校

私は、5年前のあの日、いつもどうりに学校へ行き、いつも通りにメダカへ行くところでした。2時48分、「ガタガタガタッ」それは突然やってきました。アグニキューといふ、0に近い地震も経験した事のない巨大地震。「机の下に入りなさい」先生の指示でみんな机の下に入りました。それがおさまるまで校庭へ行き、無事に避難できました。その後はこの怖さがまだ理屈をまでいながらつた。

家に帰る事ができてから数日過ぎたころ、
 テレビのニュースで恐しい光景を見た...。大きな人の建物がおしよせた波にのみこまれて、流されていくその映像を見た瞬にはじめて地震の怖さを知った。あの日、地震の怖さに気が付いたときに無事に避難することができたのは、冷静な判断で誘導してくれた先生方のおかげだと思います。将来私が、もしもこんな場面に遭遇しても冷静に行動することができるとおなにならう。あの日のことは忘れないけれど、あれではいけないことだと思っている。

東日本大震災が起きたのは、僕が1年生の時です。普通の生活をしていたら3月11日に東日本大震災が起きました。僕達の地域は地割れなどですみましたが、ほかの県の人達は、大きな地震と津波の被害がありました。津波で自分の家を失ったり、家族 友人を亡してたりして大変だったと思います。

今、僕達の地域は、東日本大震災から今までに、前と変わらない姿に戻ってきました。

今後進むべき未来は、東日本大震災のこと忘れず復興を目指すべきだと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 鶴内采三郎 年齢 12 歳 職業・学校名 田村市立鶴川小学校

平成23年3月11日、震が一年生のさる。お
のおそろいのことが起った。私は、学校の中
にいた。帰る準備をしていたら、と、然大
なゆれがおき、地震だ。先ほんに、
「机の下にかくれて。」
と言われ、みんながい、せいたかくれた。し
ばらくしてゆれがおさまった。それと同時に
みんなで外へひなへした。外へ出ると、上級
生達が泣いていた。私はなぜ泣いていたのか
この時はまだ、上く市かじなかつた。今では、
△△
市かような気がする。
今、震災から4年が過ぎ、だんだんと復興
が進んできてます。だが、今もなおまだ自分
の家へ帰れない人達、自分の家恢と会えない
人達がいる。そんな人達のためにも、一秒で
を速く復興へ國民一人一人が協力すべきだと
私は思う。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 佐久間奈々 年齢 12歳 職業・学校名 津貫川小学校

ほくは、東日本大震災のときは、小学校1年生のときでした。そのときは、つくえの下にかくれたり、外に出なくしたりもやれがひどかったので大きやぎでした。今までになりやれだったのです全くおでろさまでした。ほかの県では津波で多くの人が亡くなりました。	
福島原は放射能という災害におこきました。ぼくたち家族は、県外にへな人になりました。家にもじってきてたまは外を遊びなくなりました。まが県外の人たちからのお土産人材ゼーブやもりい勇氣づけられました。じよせんさよろい人が海岸の砂をとくのでいてく幸いました。じよせんさよろい人の人たちがいるおかげで外で遊ぶ手さうになりました。	
今は天空へじしんもないのとよかったです。	

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 佐藤 夏美 年齢 12歳 職業・学校名 漢川小学校

2011年3月11日、私は学校に行くつもりがかかるで学校をやさんでいました。ぽけーとながめう瞬間は過ぎ、今日も終わる人がなあと感動したしやん間につけ人小土なゆ木を感じました。その時はあまり気に毛色がいいと街、ていうか木。しかし、地震の中木は、おさまる一方が、逆に強くな、ていうました。私は二ねぐな、てお母さんの所に行きました。この時のお母さんは、真、青は顔で食器をおさえました。そしてお母さんは、テレビをつけてと頬またうひつけると画面上に震度6強と書いてありました。私は、不安でしがたか骨りませんでした。お父さんに電話をかけてもうながうないといふと少し上うと思、ていうとかあちやんが来てくました。少しお心しましたか、や、ぱり二ねくて泣きました。二人には二ねくて不安が思ひは生まれて初めてでした。でも今は楽しい生活をおくっています。たぶん、また家に帰れない人が一秒でも早く帰れることを願っています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 梶本守実 年齢12歳 職業・学校名 田村市立瀬川小学校

せしめ一年生のころ、東日本大震災と、原																			
げつじこがよみりました。ぼくは、このとき																			
教室の中にいました。そして、二時四十五分																			
に地震がきました。それでまほくは、地震																			
では、今が、何しているか分かりませ																			
ってました。そこで、先生が、																			
「机の下にがんばれ」																			
と言、机の下一年生は、必ず机の下にひ																			
りましました。また机を見てみると、キーホールド																			
がたおねたり。時計も落ちたり、ていて、こ																			
こも二年が、七歳です。やれがまきましたし、次																			
遊び、うなづいてくらうとして言おれたれ、																			
すぐには校庭に上がり上りました。校庭では、六																			
年生が並んで、二、三歩も下を下りながら、																			
う。																			

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 筒内 瑞穂 年齢 12 歳 職業・学校名 潟川小学校

ぼくは、今から5年前に東日本大震災を体験しました。その時ぼくは、教室にいました。地震がおきてからぼくはつくえの下に全く不ましを。地震でテレビやたなの物が落ちていました。ぼくはすごくこわがってました。ぼくたちは外へひなへしました。外にひなへしてもすぐ地面がゆれていました。その後も地震がきて自然になみだが二度ねてきました。

地震で体育館がおれ、原発が爆発して放射線のえいきょうで外にもれました。ぼくたちは、遊びことも体育の授業で体を動かすことが出来ませんでした。ぼくは、この震災を体験して自然のおそろしさを知りました。今は、こうつうに生活できていますが今まで仮設住宅に住んでいた人たちが住めなくな、古土地があります。なので、速くもとどりにしてほしいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙
氏名 佐久間 希空 年齢 12歳 職業・学校名 潟川小学校

私はあの日のモトロはまだ忘れていました。人。3月11日原発が爆発した。私はその日学校にいた。突然床が揺れ、おきた。私はもう何かおきているの分からなくな。てしました。私たちは教室にいてあまりにも大きじいしんだ、たので外の校庭の真ん中にひびました。すく怖がった。私はもう怖くて怖じてひたすら泣いているばかりだった。体育館の窓ガラスが割れていた。当時1年生だった私たち。周りを見るとき周りの夢が泣いていたことが今でも記憶に残っている。私は怖くて、怖くてじかたかなが私達のあれから5年はた、ている。今は体育館の窓ガラスも通り、いつも通りの日常だ。だがまだ行方不明の方もいる。家に帰れない人もいる。家族がいなくなってしまった人もいる。それが現実だ。だけど家族がいなくなつて悲しいより亡くなれる家族の代わりに生きる子とか今後の進むべき道ではないのかと私は思つてゐる。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 橋本奈々美 年齢 12歳 職業・学校名 田村市立瀬川小学校

東日本大震災は、私が小学1年生のときに起きました。そのときは私は、学校の教室にいました。初めて体験する大きなゆれ。そして、感じたことのない恐怖。とても怖がったのを覚えています。ゆれがおさまり、外へ避難する、雪が降りはじめました。その後、津波や福島県の原発事故などが起りました。たくさんの方々が、亡くなったり、住む場所を失ったりしました。私は、命があること。家があること・家族があることなどが、どれほど大切な事なのか実感しました。今、福島県では、福島第一原発の廃炉の問題や、避難生活を今も続けていらっしゃる方がいるなど、さまざまな問題が残されています。しかし、七ヶリと復興に向けて、前へ進んでいると感じます。

私は、私が将来、大人になったときに、東北は、福島は、東日本大震災が起り、たくさんつらいことがあったけど、それを乗りこえて、たくさんの人人が笑っているんだよと自信を持ち大声で言えばいいなと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 三浦優太

年齢 11歳 職業・学校名 湘南川小学校

2011年3月11日の時、ぼくは学校12さいました。ちょうどいい、帰りの会をしている時でした。ぼくたちは、こめ後、家に帰って、宿題して、ゲーミング、なに、様々な楽しい骨組思い浮かんだいとておもう。なんせ、誰もが、この後ぼくたちは平和に過ごすんだ。と思つていた。いや、それがあたりまえだったのです。その後その考えは、地震と津波が全てうばつてしましました。割れるガラスに泣く生徒、そして、森へ面白い番組のあるテレビ七色、波にのまれる家や車を映しておられた。その後われは納りましたが、テレビをけると、行方不明者という文字がみんなをかかり、非常に残念でした。それから5年まだ、行方不明者はいます。その行方不明者達をさして、行方不明者の数を0にし、ものさうな事が起つた、落ちついて、安全行動できるよう防災策を練る事が必要だと思ひます。地震、それは、人々の幸せをうはう残こくな雰囲気なのです。

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 佐藤正

年齢 11歳 職業・学校名 滋賀県立守山高等学校

東日本大震災の体験談は、学校が帰りの準備をしていよいよ時計した。地震があつて、いつもより地震とちがって、それが大きくなつてきく。学校が今にも吹かれそうとした。地震だけなりよか、たのですが、原発のはく發し、目に見えない放射能という物がとんでしまつた。ニュースばかりでした。放射能とは、子供にとて、人にとて、一番の害になる確率が高いと聞いとぼくは、不安になりました。広島の原ばくの話を、鬼が出たしました。

リして、かわのものがぬけこまうのではないかと毎日頭をさや、鬼、ありました。目に見えない物ほど、こわい物は、なーと鬼いました。もう二度と体験したくなーと鬼いました。日本の技術は世界的なのですが、大丈夫だと思うのですが震災前の福島に戾るよう気付いています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙
氏名 佐藤陽島 年齢 11歳 職業・学校名 田村市立瀬川小学校

1019

ほくたちが1年生だったときにも東日本大震災がおこりました。ほくはそのとき学校にいました。とてもこわがつたです。そして家にかえったら家のものがいろいろこわれていて、それまでのにじしんはそれほど大きくありませんがつたけれどもこのときはじめてじしんがこトはにおえました。いいものとわからました。そこでこのあとにテレビをつけたりするのはみで家にこやまをしました。でもほくはのところにはこなして上がつたで悪いました。しかし今はつながれをかけたところもよくなつてしまひ上がり上がつたです。

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙
氏名 横井 利瑞華 年齢 11歳 職業・学校名 瀬川小学校

2011年3月11日に東日本大震災という
大きな地震が起きました。地震が起きた
時、私は小学1年生で学校にいて、帰りの準
備をしていた時でした。突然、「ゴーゴー」とい
う大きな音が響きました。すると、全てが横
に揺れ始め、皆一齊に机の下に隠れました。
5分くらいだと恩いますが、すごく長い時間
に感じました。少し揺れが治まってから校庭
に避難した時、地震が怖くて泣いていた子が
沢山いました。私は、またいつ大きな地震が
来るのかと不安でした。今まで避難生活やが
れきの撤去作業などが続き、津波で流され
てしまった人もいますが、こうして生きていろ
事に感謝し、過去の体験を生かして今を生き
る事が大切だと思います。また、地震がいつ
起こうとも、自分の命を自分で守れるように
避難訓練を真剣に取り組みたいです。1日で
も早く避難者はその生活が終わればいいな
と思します。東日本大震災で多くの人の命が
うばわれてしまつた事は絶対に忘れない。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙
氏名 皇 夏心 年齢 11歳 職業・学校名 山木屋小学校

2011年、3月11日。私は幼稚園の年長さんでした。幼稚園から戻りお母さんと弟とテレビを見ていました。お母さんが、「あら地震。」と言い私もすぐ気がいたのを覚えてります。地震がおさまるのを待っていたけれど、段々強くなるばかりで、お母さんは弟を抱きこし私の手を強く握んで急いで外に出ました。私には靴をはかせてくれたりと、お母さんは裸足でした。お母さんは「どうしよう…お兄ちゃん学校」と泣きそうでした。余震が何度もあったけれど、家族は皆無事でした。

その日の夜は車で帰りました。後日、ラジオやテレビで沢山の命が失われたことを知りました。私より小さい人も犠牲になった事も。

あの日から間もなく五年が経ちます。我が家は避難生活し、仮設住宅に住んでいます。今の生活には少し慣れたけど、避難して不安な気持ちの人たちが沢山いると思います。五年前に戻るのは難しい事たりと、皆の笑顔が増えたらいいなと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 菅野 実夜香 年齢 10歳 職業・学校名 山木屋小学校

私は、大震災の時よううちに園にいました。山木屋には、今は帰れないし、山木屋の人達のスケートトリックもできたりので、スケートをやる事がとてもへりました。

じい人がおこった時とても泣いて泣きました。その後トレーニングアンドリームに何日かとまりました。友達もいました。

家がみつからなくてトレーニングアンドリームにとまる日が多くなりました。家がみつからとせまから

たです。私は妹姉5人です。お母さんと、お父さん、おじいちゃんで8人家族です。みつかった家はせまくて1人部屋がなくて上か

フ部屋です。でも今は、新しい部屋でとても広くてうれしいです。あの時を思いたずねて、つらくてとても思い出しくないです。

また山木屋にもどりたいです。スケートが今できなくてさすがに山木屋で精一ぱいやって樂しくすごせることを信じています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 三浦 華歩 年齢 12 歳 職業・学校名 山木屋小学校

東日本大震災の日、私は学校で授業をしていました。急にゆれが大きくなって、とても怖かったです。物もほとんどりかに落ちていきました。家にはおばあちゃんがいたので、けがをしていないか心配でした。おばあちゃんは大丈夫だったから、安心しました。屋根のかちらが落ちてしまっていて、片づけるのが大変でした。電気が使えなかつたので、うまくまでの間は、とても不便でした。

家の中が片づいてきたとき、原発事故がおきました。避難をしてと言ったり、学校の場所が変わると言ったりして、おどろきました。でも他の学校の友達と仲良くなれて、嬉しいかったです。家は何回か引っ越ししたので、大変でした。今はおばあちゃんやおじいちゃんと別々に住んでいるので、早く一緒に住みたいです。

山木屋が早く復興して、元の山木屋にもらればいいなと思っています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙
氏名 上部 星 年齢 11歳 職業・学校名 山木屋小学校

あれは、わすれることは出来ません。3月11日の幼稚園から帰ってきてテレビを見ていた時でした。はげしくゆれたしほくはこわくなり、こたつの中へかくれました。お父さんとお母さんへ仕事だったのに、ひいおはあちゃんと二人きりでした。こわくて外へ出ることが出さないぼくをひいおはあちゃんは、生け人命外へつれだしてくれました。その時のことは今でもはっきり覚えています。強いゆれと津波で原子力発電所は、はく離して大好きな山木屋からひ離す事になりました。今でもひ離生活をしているけれど一日でも早く山木屋へ帰りたいと思っています。もと通りには、ならないかもしまいかれとも、ぼくが大好きな自転車に自由に乗って遊ぶ日が早く来るといいなと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙
 氏名 三浦 葦庵 年齢 12歳 職業・学校名 川俣町立山木屋小学校

ぼくは今年ご中学生になります。東日本大震災はぼくが1年生の時でした。ぼくが住んでいた地域は、計画的ひなん地域になりました。めひなんするニになりました。そして今は川俣町に住んでいます。

ぼくは、川俣に来て色々なことを体験、ちよう戦しました。その中で一番大きくぼくを変えたことは乗馬をするようになりました。ことです。この体験の中でもとと動物が好きだったぼくは、もとと動物のニとを知りたい、強く強いたいと思うようになりました。また、震災で傷ついた動物たちがいたことも知りました。人間のせいで傷つく動物たちを助けたり、動物と関わってから仕事をつきたいと思うようになりました。

そのためには、4月から始まる中学校では、免強を一生けん命がんばりたいです。そしてぼくが立派な大人になることが今まで、応えてくれた人たちへの恩返し、福島の復興につながるのかなと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙
氏名 廣野 梨 年齢 12歳 職業・学校名 山木屋小学校

私は、東日本大震災で困ったことは、3つありました。

1つ目は、電気です。電気がつかなくて、いちうちう電灯を出して使いました。電気がないと暗くて作業ができなくて大変でした。

2つ目は、水です。水も出なかつたので、料理が作れませんでした。おぶろも入れないのと、タオルで体をふきました。

そして、一番困つたのは、家です。電気はつかない、水道も使えないとなると何もできぬので、福島のいとこの家へ行きました。少しの間、いとこの家で過ごしました。アパートに何十人と住んだので、せまかたし大変でした。

私は、早く山木屋に帰つて楽しく過ごしたいです。

今、山木屋は除染が進み、田んぼスケートリンクも再開されることには、ています。全く通りにはならないかもしれません、一步一步進んでいきたいと思います。

私のおじいちゃんは計画的ひな人区域の山木屋地区に住んでいたので今は仮設住宅におじいちゃんとおばあちゃんといいおじいちゃんとくらしています。ひなんする前は、小菊やお米、酪農をして働いていたおじいちゃんおばあちゃんがひなんすると同時に、かれいが、て、いた牛達とも別れ、仮設住宅での生活になってしまった。ひなんしてからじよせんも進み、じよせんが終た田んぼで試験さいばいが始まりました。今年で三年目になりました、全量全袋検査の結果、食品衛生法の定めう基準値を大きく下回り、安全性が確に人々されました。収穫した米を環境大臣に食べてもらいたい、もっと多くの人におじいちゃんの米を食べもらいたいです。私も毎日おじいちゃんの作、たお米を食べられる日を楽しみにしています。

一番心配していた農業も復活のきざしが見えできました。他のことモーフーフ、以前よりも前に進めていけてるいいなと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙
氏名 菅野泰斗 年齢 11歳 職業・学校名 山木屋小学木交

学校にいた時に、地震が発生しました。みんなで外に避難しました。お母さんがお父さんを来てから家に帰りましたが、停電になってしまった。とても寒かったです。

ぼくの家は酪農をしていましたが、停電で牛の糞がしほれなくなりました。お父さんが発電機を用意して牛の糞をしほりました。牛糞を冷やすバブルクリーナーも一晩中まわし続けました。でも集乳車が来なくなってしまったので、牛糞は捨てるようになりました。停電は二、三日続きました。

ぼく達兄弟しおはあちゃんは、14日に横浜に避難しました。でも、お父さんとお母さんは、二人ひがつと牛の世話をしていました。

山木屋は畜産的避難区域に指定されたので牛を飼育していくことができず、放つところになりました。

今は借り上げ住宅に住んでいます。山木屋に借り、家をみんなで酪農をしたらいいと思します。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 香取 彩香 年齢 12歳 職業・学校名 山木屋小学校

わたしは、東日本大震災が大きかったとき12歳の3月11日午後、学校にいました。																			
すみっこねずみ、たれねど、親がきたときもホントしました。																			
家に帰ると窓が割れていたり家から出たりする音をとめられました。																			
それから川俣南小学校で学校生活を過ごし、学校の近くにへ、てしました。																			
すこし、心配だったけれど、友達もたくさんできて、たのしく生活を過ごすことができました。																			
それから、川俣に家をたて山木屋の家をとりておこしてしまいました。																			
でも、こちした山木屋の家のところにかをたてたいと思つました。																			

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 高里子 大祐 年齢 12歳 職業・学校名 山木屋小学校

3月11日、ぼくは1年生でした。教室で授業を受けていると、いきなり縦ゆれの大きな地震がきました。机の下にかくれましたが、だんだんとゆれが大きくなり、校庭に出ました。全校生で地震がおさまるのを待ちました。校庭にいたら、お母さん達がむかえに来てくださいました。みんな家に帰ることになりました。その日は危いので家の中には入らず車の中で寝ることになりました。テレビもつかなかつたので、どういう状況なのが全く分かりませんでした。

原発事故が起きて、ぼく達は避難することになりました。川俣南小学校の教室を借りて勉強することになりました。川俣町内に家を借りて住むことになりました。もう5年近くたつのですが、大変だ、なことを思い出します。

これからも東日本大震災のような自然灾害は起こるかもしれません。その時にできることがあります、今から考えてみたいと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙
氏名 村上 真奈、年齢 7歳 職業・学校名 夏井第一小学校

おはようございます。今日は、お天気がいいですね。
朝食を済ませて、お風呂に入りました。
お風呂は、とても気持ちがいいです。
お風呂から出た後、朝の散歩をしました。
公園で、子供たちと一緒に遊んでいました。
公園では、花や木々がとても綺麗でした。
朝の散歩は、とても楽しかったです。
朝食を済ませて、お風呂に入りました。
お風呂は、とても気持ちがいいです。
お風呂から出た後、朝の散歩をしました。
公園で、子供たちと一緒に遊んでいました。
公園では、花や木々がとても綺麗でした。
朝の散歩は、とても楽しかったです。

(20文字×20行)

東日本大震災での大きな地震から5年の月日がたちました。復興作業はかなり進んでいます。ですが小学生の僕に道具的復興作業などのはうがもむかが分かりません。

僕が知つてこの復興作業は、補強作業や津波がきた記録、ハサードマップなどです。

あの時、多くの建物が倒壊しました。それからほとんどがきれいに整備されて、さす。人の心はどうでしょつか?

家族がばらばらになつたり、多くの人々が亡くなりました。

このきせいかり、命が深まり人々が助け合う事ができました。希望がもえてきました、この体験を通じて自分に何ができるかを考えました。これから、二軒から復興作業をしてみることを選びました。これが、この人だけにたらず自分にもできることがあります。

匿 名 希 望

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 猪子夢未

年齢 11歳 職業・学校名 須賀川市立柏城小学校

平成23年3月11日、東日本大震災が起きました。最初は、ただの地震かと思つたけれどちがいました。すごく大きな地震で、すごく揺れました。私は、その時はまだ1年生で、児童館に行っていました。何が起きたか全然読みこめませんでした。皆で、ゆうぎ室に行きました。ちょうど下の電気がすごくゆれ、こわかったです。全員が1つなく、無事で良かったです。中には、こわくて泣いている子もいました。私は、「家は無事なのが?家族はどうしているか?」と、不安な気持ちがいっぱいでした。お母さんがすぐにむかえに来てくれて、家に帰りました。家のものは、皿がすごく壊れました。自分の部屋にいたら服のかけあってた物が倒れていました。他人も人もなかつたので良かったです。津波が発生した地域がありました。亡なった人がいたのでかわいそうです。

このように、東日本大震災はとてもこわい思いをしました。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 せんば さちこ

年齢 7歳

職業・学校名

かわさき小学校

ひがし日本大震災がおきたとき、わたしはしらかわにすんでいました。その日は、ばあばがきていましたと三人でおうちにいました。すると、とつぜん大きなじしんがきて、けんなでふとんをかぶってくれました。すごくこわかったです。じしんがあわってへやの中をみたらぐちゃぐちゃになっていました。そしたらばばがえってしてくれました。そのあとばあちゃんのおうちにひなんしました。わたしは、いまばばとまと三人でおたらしいおうちでくらっています。でも、おうちのかぞくをなくした人もいっぱいいます。だからわたしは、これからもいのちをだいじに、かぞくのこともだいじにくらしていきます。そして、じょうういはやさしいこころをもつていろ大人になりたいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙
氏名 長澤 早紀 年齢 8歳 職業・学校名 かしわざい小学校

わたしは、しんさいの時は、おねえちゃん
といっしょに、おばあちゃんの家で、テレビ
を見ていました。カラカラとゆれて、く
ても大きく長くて、とてもこわくかんじまし
た。だいどころにいたおばあちゃんがわたし
たちのところに来てくれました。わたしとお
ねえちゃんは、こわが、たけと少しんしん
しました。おじいちゃんたちと4人でかしわ
ざい小学校にひなんしました。おおあさんと、
おとうさんは、おしごとだったので、会社に
行っていたかられんらくがとれず、大じょう
ぶかと、しんぱいしました。でも、小学校に
おかえにきててくれたので、ほっとしました。
家に帰ると、とけいのかラスがわれてたり、
かべにひびが入ってたりしました。わたし
は、とてもかなしがったです。わたしは、も
うあんなしんさいは、おきてほしくないと思
います。今、こうやって生活できることが、
しあわせです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 大くしまい 年齢 8歳 職業・学校名 かしわざい小学校 2年

東日本大震災がおきたとき、わたしは
3オでした。そのため、じしんのきおくはあ
りません。おとうさんから、じしんの話を聞
いたら、おうちの中はしょーっぱながたおれ
ていたり、おさらがわれていたりしていましたそ
うです。おかあさんがわたしと0オのふたご
のおとうとをつれて、にいがたけんのホテル
にひなんしたそうです。そこで、まわりの人
にいろいろたすけてもらつたみたいですね。

このまえ、テレビではんしんあわじ大震
さいのえいぞうを見て、2011年のじしん
もそれくらいすごかったのかなあと思いまし
た。わたしは、そのとき小さくて東日本大震
さいのことからなからたので、しゃ
んとかえいぞうとか、大切にのこしてほしい
です。

もしどこかで、じしんがおきてこまってい
たら、ボランティアをして、みんなをたすけ
たいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名さとうあおい 年齢7歳 職業・学校名かしわざ小学校

じしんがあつた、3月11日わたしたしはようちえんに入る前でした。おねえちゃんがようちえんからバスで帰ってきて来るので外でまつていました。帰ってきて来てきむかつたのでこたつに入りました。はじめにじしんがあつた、2時46分。すぐおさまるだらうと思いつつとしていました。つぎに大きないじしんが来てこたつにもぐりました。そのうち左っていられないぐらいの大きないじしんが来て電もつながらなくてわたくしておねえちゃんとママは車であぱあちゃんのおうちに行きました。外はさむくてニオくてわたくしはないてしましました。

しばらくしてからテレビを見てげんばつじこでほうしゃのうがもれたことをしりました。ほうしゃのうのいみがわからなくてママにきました。わたくしはかいものに行けなかつたけどうどんがしつくろしかかえませんでした。水もつかえなくてとてもうべんでした。

つなみのひかいで、たくさんしんでしまってとてもかわいそうに思いました。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙
氏名 渡部 歩 年齢 8 歳 職業・学校名 柏城小学校

平成23年3月11日東日本大震災はあ
の日に起きました。さいじょに、ぼくが体け
れいたことを書きます。

その時ぼくは、テレビを見ていました。そ
したら、いきなりじしんが起きました。あま
りにも強いやつだったのでぼくは、こたつに
もぐりました。少しゆれがおさまったのでぼ
くは、外にとび出しました。その後ぼくは、
ビニールハウスににげました。少し時間が
たつと雪がふきました。かんせんにゆれ
がおさまった時、家にもどりました。もどる
といろいろな物が落ちてきました。ぼくは
びっくりしました。

この震災でいちばんゆくえ不明者が多か
ったのはみやぎ県です。でもほかに岩手県、福
島県などでも多かったと思います。なので、け口
きつしょのみなせんや、まじょうぼうじょのせ
なせんなどの人にいで多く見つけてほし
いです。

がぼくは、東北のふしきをありがとうございます。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 すずめりか 年齢 9歳 職業・学校名 かしわざしょくがっこう

東日本大震災のときには、わたしは、年中だすたので、家族はどうなっているのかどうして川の人がどうが気になり、と、とても不安になりました。家の人はようちえんにむかえにきてくれるのかと、おながバラバラドキドキしていいと、もうパニックじようたいになつていまして。これから日本の日本をかんがえたまけてと、これを息が苦しくなりました。

そしてわたしは、どうどうなかつてしまひました。わたしは、ようちえんの先生にしがみつきました。すると、家族といところがお家にきてく来ました。わたしゃうれしくてうれしくて、ずっとないでいました。「みんながもう、大じょうぶだよ、こもりが、とも」と、ぐくぐくめたのびとお家へました。

家に帰ると、何日もじしょがありましたがみんなといふと、うち二件ました。や、ぱり家族は大切だなと思いました。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙
氏名 横田 大樹 年齢 9 歳 職業・学校名 柏城小学校

東日本大震災のときにはぼくは五歳になりましたので、今は東日本大震災のこととは、せんせんおぼえています。でも、おおかさんから聞いてみると、ぼくの家の庭は、東日本大震災がきっかけで庭で運動ができるなくなりたり、弟のすなの遊び場で遊べなくなったりしていたので、ぼくの家をじょせんをじょせんが終わって、その後、家の庭で運動ができるなり、弟のすなの遊び場で遊べたり)できただので、今習っているサッカーでも、じょせんのおかげでペリーノがうまくなり、かづらくできているので、うれしいです。

そして、ちから話を聞いてみると、福島県のくだものややさいなどの食べ物がその東日本大震災のせいで食べ物がなくなり、そして、食べ物がなくなりた食べ物をけんさして、食べ物の安全がぐるんと下りて、食べ物が食べられるようになつたので、福島県の農家の人もしごとができるようになって、いちご農家に行けたのがよかったです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 古川玲香 年齢 9歳 職業・学校名 相成小学校

ぼくは、東日本大震災の時はほいくえんのねんちようでした。ぼくは、ほいくえんでねてるときにおきました。みんなで、広い場所に行きました。えしからお母さんがおかいにきてくれました。そして家に帰って家の中を見たらかぎりたひんとかが、おこってたりちれてました。ぼくは、すこし泣いて、夜にもじしんがなつたときは、おきてました。朝になると、ぼくだけねて、お父さんやおねえちりんたちがかたずけてました。

ぼくは、あいだには家族たちが死んじゅうのかと思いました。

でもじしんは一日づつじしんは、おきまつたのです

ぼくは、もう東日本震災は、もうきてほしくないです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 石井晴香 年齢 9 歳 職業・学校名 柏城小学校

二千十一年三月十一日大じしんがおきた日
 は、わたしはまだ五さいで家の中でお風ねを
 していました。じしんがおきたしゅんがんこ
 わくてふとんの中でくるまつていました。じ
 しんがとまらなくて、いろんな物がおちてき
 ました。そのあと、外へひな人しました。こ
 わくてあとはおぼえていません。

二千十一年三月にくろうしたことは、水が
 てなくて、おふろにはいれなかっただことです。
 お店とかもしまつていておいしい物とかが食
 べれなかっただことや、げんばつじこで外にも
 でられなくて遊べなかっただことや、夜ねる時
 もまた起きるのかしんぱいしてねおれなかっ
 たです。

東日本大しんさいをけいけんして、わたし
 が一番思うことは、いろいろなことにがんし
 ゃする気持です。おいしい物を食べたり、外
 で遊んだりする事が幸せです。今後も、か
 んしゃする気持をわすれないでいきたいと
 いです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 今木 繁星 年齢 10 歳 職業・学校名 須賀川市立柳ヶ城小学校

私はあの日を忘れる事が出来ません。今でもあ很清楚です。その時私は6才でした。保育園の室内で遊んでいました。すると急に建物が大きくゆれ、みんなでおゆう室に、急いで隣のかましました。みんなで毛布の下にかくれて親のむかえを待っていました。荷物を取りに部屋にもどれば、おもちゃがくじらぐちやになっていたり、先生のつくなかたがたれたり、と歩く所のないじょうたりでした。

外を見れば地蔵にひき入り今にもわれそうな位でした。今は、そんなに地震は起きないけど、いつどこで地震が起きるか分かりません。私達が大人になってしまっても地震はおこるかもしれません。震災がおきて建物や人の命がなくなるました。建物をもとどうりになおし少しでも早く震災前の日本にもどしてほしいです。でも人の命は一つしかないので自分の命を大切に想って生きてください。命がなくなりてからでは、あるいは自分で自分の命を二番目に考え生きぼしいと思ります。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」麻模用紙

署名 希望

二千一年三月十一日に、東日本大震災がありました。

その時まだたしかに五才だったとうなが気がしました。私は育園でお昼ねの時間にちょうどおじいちゃんが来て、しばらくはいい(顔)でお母さんとかお父さんまでいました。

おがおが来てその日は少しにあがっててました。

近くの家は希モさでまに木もガスもほえて、水も(ぬ)たので近くのおばあちゃんも家にきて、人かいはり(い)ておもひました。

次に3、4ヶ月前の想いでます。

(ま)くは(ま)だ(ま)けん(ま)つ事にて家を失した日本人たちがまだ家にもどれろようにされまいとして死(い)ます。

4年前の事ですが10年後20年後とずっとまづく2人(め)に(ま)け(ま)いて(ま)じ(ま)て死(い)ます。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

ぼくは、そのとゞ年申込んでいた。お昼ごろ
 帰ってきて、ママとかんこくドラマを見てい
 たら、テレビから1んな音が聞こえて、きん
 急地しん速ほうに変わりました。福島県の地
 図が出て全部が真赤になっていてしん度5
 強になっていて、本当におどろいてこれから
 本当にくるのが不安でしたが1分後本当にゆ
 れてこあがったのも、今もおぼえています。

家は、水がでなくなり、いいおばあちゃんの
 家に、ひなしました。そしてあのおとうじい
 原発のばく発がおこりぼく達は、これからどう
 したらいいのか心が不安でいっぱいでした。

お父さんが、「ひな人しろ」と言つたので、
 お母さんと、妹と、3人で、岐阜に夏休みま
 で、ひな人していました。ぼくは、原発がな
 い世界をつくりたいと思っています。

匿名希望

東日本大震災は、今から4年前、私が6才の時に起こった災害です。私はその時、家に居ました。いとこと遊んでいると、突然やれました。それまでは、太陽も出て、風もなくとてもいい天気でした。でも、やれると同時に、外はまくらでぱりぱりでした。私といとこのおばあちゃんは急いで外に出ました。車に乗りこんで、さっと待っていました。どちらから見る景色は、まさゆえに、私には、初めて見る景色でした。まくらで、風も強く、電線も切れ、電柱は今にも倒れそうな強いやれがおいかからでしましました。ひな人をするこになり、柏城小の教室、二中の体育館にひな人しました。これは人は、ほどんど力アップランニングで苦しい生活でした。ひな人が終り、家に帰ると、下足箱が古きれ、へこしている所がありました。毎年、3月11日2時46分に元々どうをします。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 王國成 年齢 10 歳 職業・学校名 福島県須賀川市立木舟城小学校

This image shows a single sheet of handwriting practice paper. It features a grid of horizontal lines for letter formation. The top two rows contain printed text for tracing: "THE V IS THE CROWN OF THE FORTRESS" and "DIXIE IS THE BATTLE CRY OF THE SOUTH". The remaining rows are blank for independent handwriting practice.

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙
氏名 遠藤更実日 年齢 9歳 職業・学校名 木白城

1050

まくは東日本大震災の時は、ちがた、た
で保育園にいました。近くの駅前商店街をじ
てえりがたが、たと、友達や先生が元して
を見て初めてわがりおじさんまで見
て海は近くにけんと県が流れていたのが
べ覗しましたが、すぐ母が来てくたので
おひこました。

この一週間後がまた1生日でした。而
既然是た1生日だから1年生でも馬鹿
あけたい」と言つて、お母ちゃんがいました。
「今日はお祝いをしたが、木々がいい
か、お花が咲いていましたが、小さじ
本を握つけて見て、それでうれしかった。
今日は1生日でしたものとおもひました
上と下と手と手と手と手と手と手と手と手
えん筆が水しがたであります。
まくは、一年といつも運び出している
木々をうらやましく思っておき
はこのかがかりも人か、木々に隠れてお
ひこす。

(20文字×20行)